

様式（第9条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和4年度第3回益田市介護保険推進協議会
開催日時	令和4年10月21日（金） 14:00 から 15:45
開催場所	益田市役所大会議室
出席者	別紙名簿のとおり 【出席者】 田中委員、野村委員、山鳥委員、土佐委員、中山委員、松本委員、小原委員、堀部委員、島田委員、栞原委員、渡辺委員 東部地域包括支援センター、中部地域包括支援センター、西部地域包括支援センター、美都地域包括支援センター、匹見地域包括支援センター 【事務局】 波田福祉環境部長、山下高齢者福祉課長、大崎高齢者福祉課長補佐、高森高齢者福祉課長補佐、堀江事業者指導係長、渡辺地域包括推進係長、齋藤匹見地域総務課長補佐、秀浦主任、琴野副主任主事
議題	令和4年度第3回益田市介護保険推進協議会 【議事】 (1) 第8期介護保険事業計画の進捗状況について (2) 地域包括支援センターの機能強化について ①各地域包括支援センターが取り組む機能強化について ②包括的・継続的ケアマネジメント支援機能強化について 【その他】 ・介護予防ケアマネジメントの委託について ・地域密着型サービスの公募について
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
審議経過	1 田中会長あいさつ 2 議事 (1) 第8期介護保険事業計画の進捗状況について 【事務局】 資料1-(1) 自立支援、介護予防、重度化防止の推進 (p4~) を説明

【委員】	<p>[意見・質疑応答]</p> <p>私自身は要支援の方と関わるのが少なく、地域個別会議にもあまり参加できていないが、住民同士の支え合いが大切だと感じている。郊外は近所も遠く、集いの場があってもそこへ通う移動手段がないことが課題と感じている。</p>
【委員】	<p>介護予防の集まりに参加できていた人ができなくなった時、そもそも参加しない人の介護予防をどう考えているか？</p>
<p>【事務局】</p> <p>【地域包括支援センター】</p>	<p>参加できていた人ができなくなった場合のフォローは、民生委員さんや地域の健康づくりのお世話される方たちとの横の連携で取り組めるのではないかと考える。</p> <p>基本チェックリストを5項目したものを作成し、民生委員さんにその5項目を気にかけてもらい、早期発見、包括へつなぐ取組をおこなっている。また、小さい集まりの中でフレイルについて話をするようにしている。</p>
【委員】	<p>民生委員さんのみならず、他の団体との連携もして行ってほしい。</p>
【事務局】	<p>資料1-(4) 日常生活を支援する体制の整備 (p14~) を説明</p>
【委員】	<p>[意見・質疑応答]</p> <p>第1層協議体、第2層協議体について詳細を聞きたい。第2層は日常生活圏域及び地区とあるが、例えば中部は吉田・益田・豊川・真砂という解釈でよいか。</p>
【事務局】	<p>第1層協議体では市全体の課題を取扱う。社会福祉協議会に委託している。年2回の開催となっているが、R3はコロナの影響で開催は1回。</p> <p>第2層協議体は各日常生活圏域に設置され、匹見圏域は令和3年度、美都圏域は今年度設置された。その他地域は模索中である。</p> <p>中部圏域の解釈はおっしゃられた通りだが、範囲も広く複数の地域が含まれており、できるところから地域包括支援センターと生活支援コーディネーターが検討中。</p>
【委員】	<p>匹見圏域は早い段階で設置されていたが、美都圏域は今年度から設置された。益田3圏域の設置は容易ではないが、設置に向けて公民館や自治組織への訪問等取り組んでいる。</p>

【委員】	地域でも住民同士のふれあいについて難しい課題と感じている。自治組織との連携できるのではないか。
【事務局】	資料1-(3) 在宅医療・介護連携の推進 (p11~) を説明
【委員】	[意見・質疑応答] 「人生会議」の内容や対象者は？
【事務局】	終末期の自分のあり方を身近な人と一緒に考えましょうと普及啓発するために国が用いている言葉。
【委員】	かつては尊厳死というテーマで実施していた。 人生会議というテーマで招いたこともあるが、その時は大人数では行わず5,6人の小さな集まりで、気軽な感じで話せるようにした。 だが、話の意図が受けとり方で異なることがあるので、話し方に注意がいと感じたことがあった。
【委員】	『QOD』(死の質)という言葉ある。なかなか地域には浸透していないかもしれない。「エンディングノート」という言葉を使ってもいいかもしれない。 小さな単位のほうが伝わりやすいのかも。公民館との連携も。
【事務局】	資料1-(5) 認知症施策の推進 (p17~) を説明
【委員】	[意見・質疑応答] 認知症についてはまだまだ地域の受入れが難しいという印象。認知症のため運転免許を返納した方が、ラクターで地域を回っていた際に不審者と間違われて通報された事例もある。
	認知症になったらどうしようというマイナスのイメージがあり、この心理的な壁は高い。 認知症カフェの新規設置があったが、認知症予防カフェになっている現状。当事者の参加がまだまだ少ないカフェが多いのが課題だ。 認知症になっても生活していけるという取組が必要。
【委員】	社会的役割を持つことが課題で、認知症になってもできることはたくさんあるが、役割を与えられない。どうしても家族が隠してしまうという声もある。 保健所との連携もあってもいいのではないか。

【事務局】	資料1-サービス見込量の進捗管理のための作業シート (p2, 3) を説明 資料1-(7) 介護人材の確保・定着 (p24~) を説明
【委員】	[意見・質疑応答] お助け隊として、週に3回来てもらっている人がいる。環境整備をしてもらい大変助かっている。有資格者に来てもらえるとなお嬉しい。 通所系の事業所は比較的充足している印象だが、訪問系のサービスがとりづらい。 訪問介護事業所は、美都1、匹見1、市内9(8へ)で従業員は多いところもあるが、だいたい5,6人。 訪問看護も24時間体制でしているところは3箇所4~7人。 訪問入浴は1箇所のため、朝9時からお風呂になってしまう。 移動に時間がかかるのと、ガソリン代の問題がある。 また、ケアマネの平均年齢も高く、10年後どうなるだろうかと危惧している。
【地域包括支援センター】	(2) 地域包括支援センターの機能強化について 資料2-①各地域包括支援センターが取り組む機能強化について説明
【委員】	[意見・質疑応答] 高齢、障害、子ども、生活困窮など複合化した支援ニーズに対応する重層的支援体制の中で、地域包括支援センターの役割は大きくなっていく。ソーシャルコミュニティの枠組みを知って取組をしてほしい。
【事務局】	資料3-1-②包括的・継続的ケアマネジメント支援機能強化について説明
【委員】	ケアマネジャーの困り感を受け止め、寄り添って適切な支援につなげてほしい。
【委員】	包括とケアマネジャーが連携しても解決につながらないケースもあると思う。その原因は何なのか分析していくことによって、サポート体制を議論できると思う。
【委員】	包括からこの協議会で機能強化について検討してほしいことがあるか？

【地域包括支援センター】	地域の中で日々頑張っているが評価されにくい。その点についてご意見伺いたい。
【委員】	他の包括の取組みを知り、取り入れていくといいかもしれない。他の包括との仲介などもできると思う。
【委員】	包括の取組みの中で、民生委員の定例会に関わってくれていることがありがたい。
【委員】	地域からすると行政の縦割りの体制が少し改善してきているように感じている。ケアマネジャーや民生委員とのつながりなど情報共有ができてきていると思う。
【委員】	残りの計画期間の事業実施や第9期計画策定に向けてヒントになるご意見だったと思う。 ぜひ、参考にして取り組んでほしい。
【事務局】	<p><b>3 その他</b></p> <p>(1) <b>介護予防ケアマネジメントについて</b></p> <p>・益田市に住民票を置いたまま市外でサービスを利用する方については、要支援の認定を持っておられる方は益田市の包括支援センターから市外の居宅介護支援事業所の方にマネジメントを委託することがある。本来であればこの会議で承認をいただくものではあるが、事前に会長に内諾をいただき対応している。この場では報告に代えさせていただく。</p> <p>(2) <b>地域密着型サービスの公募について</b></p> <p>・8月31日まで小規模多機能型居宅介護2施設の公募を行ったが応募はなかった。今後のサービス提供体制については、施設の整備状況、利用状況など考慮し9期計画に向けて検討していくことにする。</p>